

令和3年度「男女共同参画に関する県民意識調査結果」の概要

(くらし・環境部男女共同参画課)

1 要 旨

男女共同参画に関する県民の意識及び男女の平等感などを把握し、今後の施策推進のための基礎的な資料とするため、県民意識調査を実施しました。(隔年調査)

2 概 要 (調査結果)

	項目	回答結果 (R1→R3)
Q1	性別にかかわらず個性と能力が発揮できる機会が確保されていると思う。	全体：30.1% → 32.3% 男性：35.4% → 39.7%、女性：25.7% → 26.6%
Q3-1	「ジェンダー」という言葉を『知っている人』（「知っている」＋「聞いたことがある」）の割合	全体：59.4% → 78.3% 男性：54.4% → 77.8%、女性：63.9% → 78.6%
Q10	男性の1日当たりの家事平均時間	平日：1.11時間 休日：1.49時間 ※R3新規調査項目
Q11	意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由 1 社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから 2 女性は継続して勤務することが困難であるから	1 51.3% → 53.6% 2 50.5% → 44.4%
Q15	「性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）」という言葉を『知っている人』（「知っている」＋「聞いたことがある」）の割合	全体：82.1% ※R3新規調査項目

※分析結果

- ・Q1：「性別にかかわらず個性と能力が発揮できる機会が確保できている」と思う人の割合は、女性で約3割と依然として低い状況である。
- ・Q3-1：「ジェンダー」という言葉を『知っている人』の割合は、前回調査と比べて20ポイント近く上昇した。理由として、オリンピックの開催により認知度が向上したことが考えられる。
- ・Q10：「男性の1日当たりの家事平均時間」は、女性と比較すると約4分の1である。（女性：平日4.47時間、休日4.61時間）
- ・Q11：「指導的地位への女性登用が少ない理由」では、固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることが挙げられる。
- ・Q15：「性的マイノリティ」という言葉を『知っている人』の割合は、約8割となっている。

<参考>

- 1 調査対象及び方法：県内在住の満20歳以上の男女、郵送調査
- 2 回収結果：有効回答数：826件（標本数2,000件、回収率41.3%）
※詳細は、県男女共同参画課ホームページに掲載

第3次静岡県男女共同参画基本計画の成果指標に係る目標値変更

(くらし・環境部男女共同参画課)

令和3年度「男女共同参画に関する県民意識調査」を実施した結果、以下の成果指標について、計画策定時（令和3年2月）に設定した目標値を達成したなどしたため、下記のとおり目標値の変更を行う。

なお、当該成果指標は、次期総合計画（2022年度～2025年度）の指標として、位置付けることとしている。

1 変更となる指標

	成果指標	計画策定時 (2019年度)	最新値 (2021年度)	目標値（2025年度）	
				変更前	変更後
1	「男は仕事、女は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識にとらわれない男性の割合	59.1%	66.9%	65%	80%
2	「ジェンダー」という用語を知っている（「知っている」＋「聞いたことがある」）人の割合	59.4%	78.3%	70%	90%
3	男性の家事・育児関連時間 ※子育て世代（20～50歳代）の男性が1日の中で家事・育児をする時間（週全体の平均）	—	2時間50分	前年度より増加	3時間30分

※男性の家事・育児関連時間は、2021年度から調査開始。

2 目標値設定の考え方

	成果指標	目標値設定根拠
1	「男は仕事、女は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識にとらわれない男性の割合	直近4年間の上昇ポイント(11.5%)を参考に設定(66.9+11.5=78.4→80%)
2	「ジェンダー」という用語を知っている（「知っている」＋「聞いたことがある」）人の割合	世代別で割合が最も高い30代が92.3%であることから、全世代平均での目標値を90%に設定
3	男性の家事・育児関連時間	国の調査（社会生活基本調査）の直近の増加率を参考に設定